公益社団法人日本麻酔科学会 第74回学術集会
≪投稿演題における査読基準と注意点≫

公益社団法人　日本麻酔科学会
学術委員会　委員長　井上　聡己
第74回学術集会　会　長　川口　昌彦

抄録内に必要な記載と各種申請にあたっての注意点

下記Ⅰ～Ⅲについては抄録作成時に注意すべき項目です.

Ⅰ. 基礎研究及び臨床研究においては抄録本文中に，対象数，結果の数値，統計処理方法を記載すること. 数値データが適切である（対象数，統計処理等）ものを高評価とする.

Ⅱ. 研究結果や結論を記載する. 結論は応募研究の結果から導かれるものを記載すること.

Ⅲ. 本文中に施設名や施設名が類推される倫理番号を記載しないこと.

二重発表（投稿）に関する注意点

演題は，募集締め切り日時点で未公表のものに限り，重複するデータを含む論文が雑誌で出版されておらず，かつ ISSN（International Standard Serial Number）あるいは ISBN（International Standard Book Number）付き出版物において出版されていないこと，また学術集会開催時点で，国内外の学術集会で未発表のものとします.

Ⅰ. 応募締め切り後から学術集会開催日までに，投稿論文が論文発表または雑誌等で出版された場合は，発表の際に演題応募後に発表・投稿された旨を明示すること.

Ⅱ. 一部の研究内容がすでに発表されている，あるいは症例数が異なる同一の研究内容は二重投稿とはしません. また，講演やシンポジウム，あるいはテレビや新聞取材等ですでに公表済みの研究成果を発表することも可能とします（二重投稿には当たらない）. ただし，公表済みであること，あるいは過去の発表との相違点等について，抄録内に明記すること.

※二重発表であっても研究内容を周知，討論する意味において，本会で発表する価値があると考える場合は，抄録中に二重発表であることを明記の上，登録することを許可しています. よって，採否判断は査読員に一任いたします.
※二重投稿した演題は優秀演題セッションに選定できません. 該当演題は最高点以外の評価としてください.
※小規模の研究会等での発表で，発表業績に当たらないものは二重投稿とみなさず査読してください.

代表的な抄録（採択演題）の記載例

【演題名】自主開発した非接触型体温計の有用性の検討

【抄録本文】

目的：今までの体温計はすべて体腔内に挿入するか，あるいは皮膚に接触して有線で集中モニターに接続するのが一般的であった．今回，われわれは患者体表面からの赤外線を感知して，その中でも高い温度を深部温として測定可能な無線でのモニターを開発したので，その有用性について検討を加えて報告する．

方法：当施設（本文中に施設名や施設名が類推される倫理番号を記載しないこと）の倫理委員会で承認を得，事前登録した上で，全身麻酔で手術を受ける成人患者 20 名を対象として研究を行った．対象患者からは文書で同意を得た．全身麻酔導入後，代表的な深部温モニターである食道温プローブを食道内に挿入し，同時に上記で述べた体温モニターで測定される体表温度を測定した．両者で測定される温度は 5 分ごとに記録し，有用性については Bland-Altman 解析で行った．

結果：20 名の患者から得られたデータ総数は 2,120 であった．Bland-Altman 解析によって，差の平均は+0.05℃で，標準誤差は 0.03℃であった．本研究の施行によって食道温プローブの挿入を含め，患者に有害事象はなかった．

結語：われわれの開発した赤外線式体温モニターは，完全な非侵襲で患者の深部温を正確に測定できることが明らかとなった．患者とモニターをつなぐコードもプローブも必要とせず，広く普及することが期待される．